

14~15才ぐらいにならなければ宿題はないのです。日本では2年生の子供にも宿題が毎日あるので、結局子供に対する負担はずいぶん違うわけです。

ですから、社会に対する教育制度の影響はかなり大きいと思うのですけれども、今まで階級社会の再生産に働いていた制度が解消されてもっと平等な制度になっただけではなくて、やはり制度全体としては子供に対する負担が軽く、知識をたたきこむ教育でなくて、本当の意味での人間形成の教育に近いと思います。

この間テレビで見た番組で日本の教育は「子供時代のない子供」を作るとかいうような言い方をしているのですけれども、決してイギリスの子供は日本の子供のように子供時代がないということはなく、非常にのびのびと子供が育っています。そして眼の前に将来大学の入学試験が控えているという意識がないから、別に大学入試に向かって教える必要はなくなって、本当の意味でその子供の能力、趣味・興味に応じて教育出来るようになるわけです。その意味で、イギリスの教育制度は、イギリスの個人主義的な、個人の人格を重んじる伝統がこれからも続く限り、その儘続くのではないかと思います。

〔所報〕

1 事務局会議報告

10月11日12時~3時 生田校舎研究本部にて事務局会議が開かれ次のようなことが話し合われた。

1. 事務局員の交代等について

これまで文献担当(チーフ)をやってこられた鈴木直次事務局員が都合のため事務局員を辞任されることとなった。近く新担当者を補充することにしてさしづめは鈴木氏のアドバイスも受けながら八林事務局員一人をお願いすることになった。財政担当のうち(従来内田・矢吹所員)のうち矢吹所員が都合のため所員を辞任されることになったため、かわって編集担当の酒井所員に財政を担当して頂くことになった。編集担当は当面、兼任になるが、なるべく早期に財政だけに専任し、新しく所員を補充することが申し合わされた。

2. 各部報告

(1) 財政(内田・酒井所員担当)

内田所員から今年度の収支状況について例年通り順調に進行中であるむね中間報告された。

(2) 研究会(宮田・泉武)・平川所員担当)

泉所員から報告あり。夏休み明け以後の研究会としては、次の研究会がおこなわれた。

日時 9月25日(火)午後4時10分より、場所 生田校舎、第5会議室(6号館)

報告者 作間逸雄所員 テーマ「新SNAの“産業”概念」

次回の研究会は

日時 11月24日(土)午後1時より、場所 神田校舎12A会議室、報告 1.宇都栄子所員「近代日本における育児施設設立とその定着過程について—上毛孤児院の場合—」
2.土方保所員「イングランド銀行について—16mm貴重フィルムによる紹介を支援して—」

(3) 編集委員会(森・津村・酒井・小沼所員)

津村所員から報告あり。『年報』第13号の編集は着々と原稿が集りつつあるが、若干の出入りがある次在所員の原稿が加わるようになった。宮坂宏「中国における立法動向について」、大西勝明「現代企業と技術」。

『月報』の今後の予定は次の通り。10月号 Dr. マーチン・コリック「戦後イギリスの大学教育と社会」、11月号、室井義雄「アフリカにおける低開発の問題」、12月号、石渡貞雄「現代大企業経営者の性格」(1)、1月号「同上」(2)

(4) 文献(八林所員)

八林所員から「図書整理作業要領案」という綿密な計画が出され、これにもとづいて討議。科研費図書については、とくに科研費図書を購入利用された所員の意見によれば、現在とくに一般図書と分けておく必要がないということなので一本化したらどうかという提案が出され了承された。

Ⅱ 実態調査について

柴田所員をチーフとする「地域社会構造の文化と住民意識」グループは、去る9月9日～13日千葉県富津市の実態調査を行った。調査内容は京葉埋立計画による埋立の経過と住民意識の実態および地域住民の意識についてのアンケート調査を行った。

〔編集後記〕編集子は講演者のすすめられる森嶋氏の『イギリスと日本』『同統』すら読んでいない間外漢だが、戦後の労働党の教育政策によって、「少数の“パブリック・スクール”から少数のエリート大学」に代表されたイギリスの教育体系が、実質的に大幅にオープン化され、さらに平準化されたらしいことを知った。

「百聞は一見に如かず」というが、森嶋氏の本に目を通されるおヒマのない方も、この小冊子なら10～20分で読める筈。特に大学人に御一読をおすすめしたい。

小見出しは、こちらで勝手につけさせていただいた。ミスリーディングでないことを願っている。

[H. M.]

神奈川県川崎市多摩区生田4764 電話(044)911-8480(内線33)

専修大学社会科学研究所

(発行者)大友福夫
